

9月15日は敬老の日

「福祉体験サマースクール」でのひとこま

夏休みの中・高校生に、さまざまな福祉体験をしてもらおうと、市社会福祉協議会やまとボランティアセンターが主催する「福祉体験サマースクール99」が8月2日から12日まで開催されました。講義一辺倒ではなく、体験することに主眼が置かれている同スクールで、参加者は福祉施設での実習やいろいろな立場の人たちの話を聞きまし

た。参加者の一人、つきみ野中学校2年の中川麻美さんは8月11日、民生委員児童委員と地区社協のふれあい訪問ボランティアといっしょに小倉静さん(86歳)のお宅に行きま

した。小倉さんは次々と身内を亡くし現在一人暮らし。社会福祉協議会のヘルパーやボランティアの人たちが定期的に訪れます。小倉さんから「こつちへいらつしやい」とやさしい言葉をかけられ、すぐにうちとけた中川さんは、学校や家庭、友だちのことなどを次々と話

します。小倉さんも東京大空襲など戦争中の体験談を聞かせてくれました。「極限状態になると、死体を見て何も感じなくなってしまう」と小倉さん。とても恐いことですね」と中川さんがうなずきます。また小倉さんは、何でもいいから自分の好きなことをみつけて、一生懸命にやっ

てくれました。ね」と温かいアドバイスもしてくれました。

話の途中には、お母さんをおみとったことや「人はどう生きるべきか」など重いテーマも出てきましたが、中川さんは中学生なりに受け止めたよ

うです。話が尽きなく、時間はあっという間に過ぎました。また来てほしいですか」という中川さんに、「もちろん。ひ孫みたいな子に来てもらって本当につれい」と答える小倉さん。訪問を終えた中川さんは「うちにもおばあちゃんがいるけれど、本当におばあちゃんと話をして感じてみたいです。今度はお菓子をもってきたい」と笑顔を見せま



市内の状況は

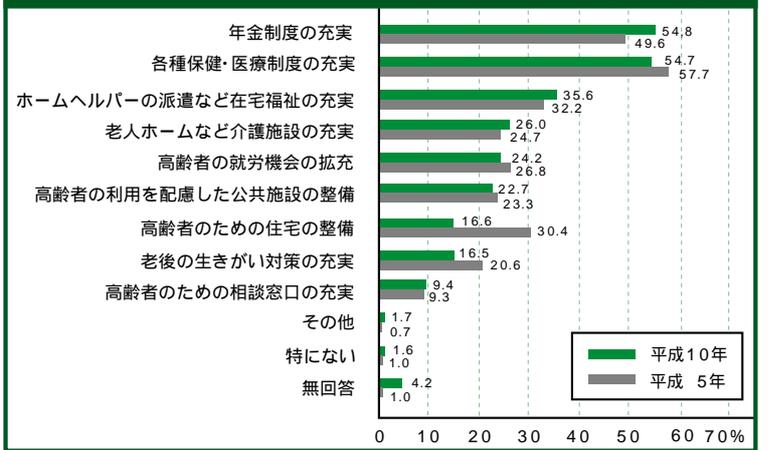
市内に住む65歳以上の人口は2万2710人(今年7月1日現在)で、全人口に占める割合(高齢化率)は10.88%です。市内の最高齢は、明治30年生まれの新井ぎんさん(福田)の西、福島とよさん(福田)の102歳です。また100歳以上は新井さんたちを含めて10人で、うち男性が1人、女性が9人となっています(8月末現在)。

市が平成4年度に策定した「第6次大和市総合計画」では、高齢化率を平成12年度で9.6%、同17年は11.7%、平成22年では14.6%に達するものと推計されています。高齢化社会はこれを上回るペースで進んでいます。しかし大和市の高齢化率は県内では低い方で、平成10年1月1日の県の調べによると、県内37自治体のうち、高い順から30番目となっています。さて、昨年の9月、10月に市が行った市民意識調査(無作為抽出の16歳以上の男女3000人にアンケート、回収率55.9%)で、高齢化社会に向けて、行政に特に力を入れて欲しいと思うこと(複数回答)の問いに対して、最も多かった答えが「年金制度の充実」(54.8%)で、次いで「各種保健・医療制度の充実」(54.7%)、続いて「ホームヘルパーの派遣など在宅福祉の充実」(35.6%)でした。

平成5年の同調査では、「各種保健・医療制度の充実」が第1位(57.7%)、「年金制度の充実」が(49.6%)2位だったのが、昨年の調査では逆転しました。さらに特徴的なことは、「高齢者のための住宅の整備」が13.8ポイントと大きく減少していることです。年齢別の集計では、60代以上では「各種保健・医療制度の充実」が最も多いのですが、20代から50代までとなると、「年金制度の充実」が最も多くなっています。

このほか自由回答には「高齢者の住みやすい街にしてほしい」、「高齢者が行政のみを当てにせず、自立を意識させることも必要」などの意見が寄せられています。

高齢化社会に向けて、行政に特に力を入れて欲しいと思うこと。(複数回答)



消防団消防技術競技会が 開催



8月1日に引地台公園で市消防団消防技術競技会が開催されました。同競技会は、地域の消防防災活動などに従事する市内消防団員の士気の高揚や活動の迅速化、消防技術の向上を目的として、4年ごとに開催されています。7回目となった今年は、市内12の消防団から15

チーム、90人が参加して行われました。競技種目は、4人で編成されたチームが、水槽から約65m離れた火点に対し、20mのホース3本をつないで鎮火作業を行う「小型ポンプ操法」。ホースの運搬・設置、動力ポンプの操作など、一連の消火作業の早さはもちろんのこと、その作業の確実性も評価の対象となります。真夏の日差しが照りつける中、各チームとも指揮者の掛け声の下に、きびきびとした

同競技会の結果(敬称略)	
最優秀賞	第8分団(市長賞)
優秀賞	第7分団(市長賞)
優良賞	第3分団Bチーム(市長賞)
特別賞	第2分団(消防協会大和支部長賞)
個人賞 (大和市消防 火の丸会長賞)	指揮者 高下 博明 1番員 天野 良春 2番員 蜂須賀 栄司 3番員 吉野 晃弘(以上、第2分団)

動作で消火活動を行っていました。

市中心市街地活性化基本計画 検討委員会が初会合

「広報やまと」7月15日号でお知らせしたように、市では平成10年7月に施行された「市中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律」に基づき、大和駅周辺市街地を更に発展させるための取り組みを推進しています。このため、「大和市中心市街地活性化基本計画検討委員会」が設置され、8月11日に第1回目の委員会が開催されました。

同委員会は学識経験者や地元商店街、街づくり組織の代表者など22人で構成され、会議の冒頭で委員一人ひとりに土屋市長から委嘱状が手渡されました。そして、座長に斉藤進氏(産能大学教授)、職務代理に大場保男氏(中小企業診断士)が選ばれました。斉藤氏は就任に当たり、「計画で終わらせるのではなく、実行出来ることを念頭において議論を重ね、提言していただく」と抱負を述べました。その後、今後のスケジュールや同法の概要、大和駅周辺地区の概況について、担当職員から説明を受けた後、「今後検討していく基本計画と既に策定されている市総合計画や都市計画マスタープランと、どのように整合させていくのか」などといったやりとりが活発に行われました。

同委員会は今後、月1回程度開催され、来年1月には、「市中心市街地活性化基本計画策定に向けた提言」を市長に提出する予定です。これを受けて、市では同基本計画を来年3月末までに策定し、同法の適用を受けて計画的に事業を推進することになります。なお、市街地の整備改善で主に公共施設の整備について市が行い、商業などの活性化については大和商工会議所が、中小小売商業高度化事業構想(TMO構想)や同計画(TMO計画)を策定して事業を進める予定です。詳しくは、市役所都市総務課都市政策担当(260)5444へ。

厚木基地司令官に 「デモンストレーション飛行」を 行わないように要請

土屋市長は8月20日、厚木基地司令官ケヴィン・P・マクナマラ大佐に直接会い、9月25、26日に予定されている基地開放日において、騒音被害と事故の危険性を伴う「デモンストレーション飛行」を行わないよう強く求めました。また同日、神奈川県と基地周辺7市が、8月23日には市議会が同様の趣旨で要請を行いました。

空母キティホーク入港、 大和市基地対策協議会が米国大使館と国に要請

8月25日の米空母キティホークの横須賀入港に先立ち、同艦載機が激しい騒音を伴い厚木基地に飛来しました。このため、体の具合が悪くなった「子どもがおびえて泣き止まない」などの苦痛や不安を訴える内容の苦情が数多く市に寄せられました。このような状況の中、厚木基地に起因する諸問題の解決を図るため市民各層の代表者によって構成される大和市基地対策協議会(会長 土屋市長)が8月30日、アメリカ大使館をはじめ、防衛庁や防衛施設庁、外務省に出向き、米空母艦載機を中心とする航空機騒音による大和市の被害実態を訴えるとともに、厚木基地での夜間連続離着陸訓練(NLTP)の禁止と基地開放日のデモンストレーション飛行の廃止をはじめ、航空機騒音の軽減や航空機の安全対策の徹底、国の住宅防音工事の拡充などを強く要請しました。市は今後も、基地に関するさまざまな問題に対して、全力で取り組んでいきます。